

ふたなり更生監獄



No.027

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

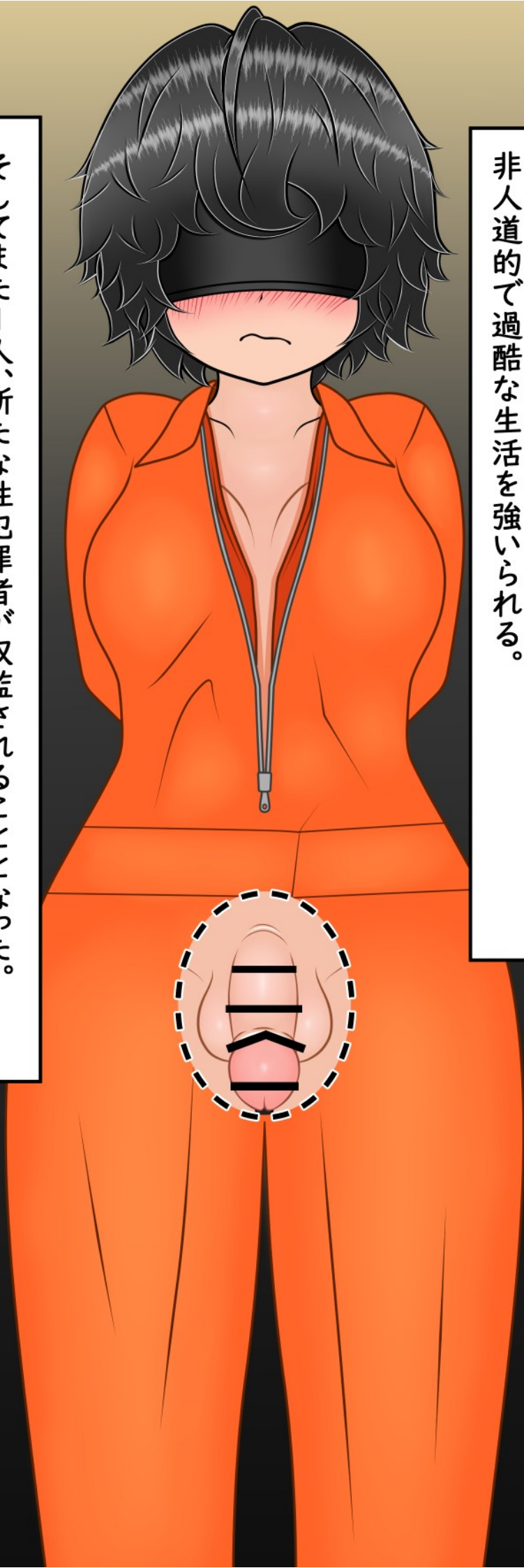
『ふたなり更生監獄』

悪質な性犯罪を犯したふたなり女性を収監し、徹底した性欲の管理による更生を目的とした施設。

異常なまでの性欲を抑制するのは容易ではなく、囚人は非人道的で過酷な生活を強いられる。

そしてまた一人、新たな性犯罪者が収監されることとなった。

面識の有無も男女も問わず、実に一人が彼女の犠牲となっている。レイプした相手が失神しても萎えることのなかった絶倫の性機能を有する凶悪な男性器を持っており、かなり厳しい管理が望まれる。



【刻印】

「囚人番号No.027。今日からそれが貴様の名前だ。ここではお前に衣服は必要ない。身に着けることが許されるのはその首輪と貞操帯だけだ」

担当となった女看守が、強い口調で服役についての説明を始める。

囚人番号：027

罪状：強姦罪

刑期：720時間の淫行制限

首輪は常に受刑者の脈拍、発汗等により性的興奮を感知しており、一定以上の興奮状態では刑期を刻むタイマーがストップする。

貞操帯は担当看守の指紋認証を行った後、10秒以内に専用の鍵をさし込まないと開錠できない。受刑者が不当に開錠しようとして衝撃を加えると、すぐに担当看守に伝わる。また、陰茎を覆うケースの内側の圧力センサーにより、勃起が感知されている間も、刑期タイマーがストップする。

「淫行制限中は、許可の無い完全な勃起は禁止となる。射精や勃起を懇願する趣旨の発言や、我々が淫乱だと判断できる言葉も禁止だ。許可無く口を開かないのが賢明だろう。

特に、射精についてはいかなる場合も絶対に認められない。発覚した場合は即、極刑…つまり去勢を執行する。刑期については規則違反や担当看守の心証次第で無制限に延長される。そして、残りの刑期を知る術は貴様には無い。

最後の射精は…10日前の犯行時か。言っておくが収監前に射精が許されることはない。多少の罰を受けてでも勾留中に済ませておくべきだったな」

ひとつおりの説明の後、レーザーによってNo.027の下腹部に囚人番号が刻まれた。生涯消えることのない、罪人の刻印が…



あーっ!!

熱っ!!

ふっ

ふっ

ビクビクッ

ブルブル

ジジジ

No.02

ガッ!!

【身体検査】

「入房前に身体検査を行う。そこに手を着いて、尻をこちらに向ける」

身体検査用の狭いスペースで、担当看守が指示する。

「もっと尻を突き出せ！よし、そのままだ。その高さのまま動かすな」

「あうう…」

恥辱的なポーズを強要され、No.027は赤面する。

房内への私物の持ち込みは、全ての囚人について一切認められていないが、身体のどこかに隠して持ち込もうとする者がいるため、入房までに検査をされる。

特に腸内に何かを隠す手回が多いため、そこは徹底的に調べられる。器具で肛門を強制的に開かれ、ライトで腸内を照らされながら、金属の棒で念入りに掻き回される。

「はあっ…深っ…！はうあっ…♥」

「尻を下げるな！さっきの高さまで戻せ」

「うっ…くう…♥」

「動くなと言っているだろう！検査を拒否するつもりか？何か隠し持っているな！？」

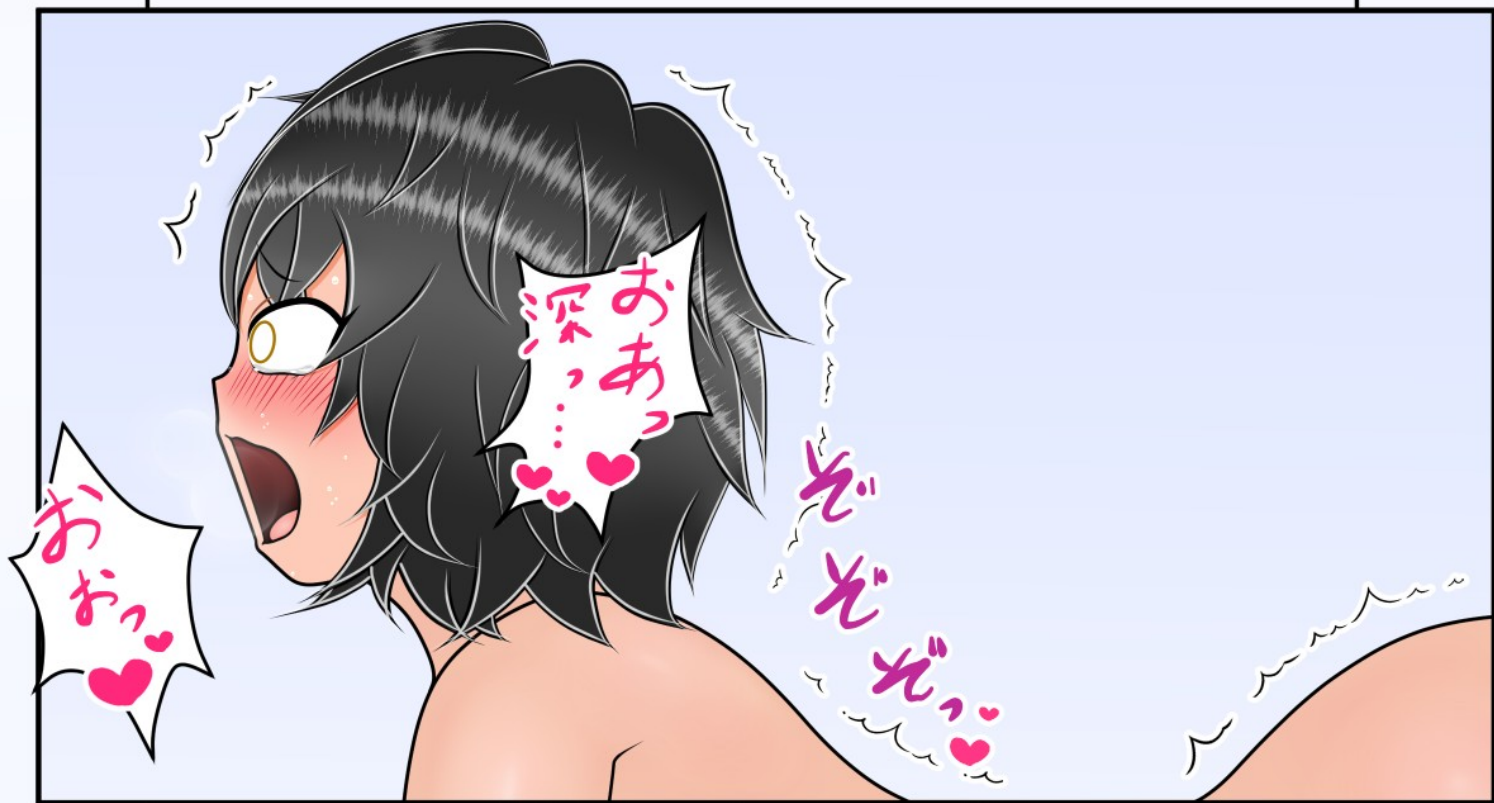
「ご…ごめんなさ…！ひゃううう♥」

担当看守は厳しい怒声を発しながらも、腸内を掻き回すその手つきはやけにねちっこく、性感を刺激するものだった。わざとそうすることで、囚人の淫行制限をより苦しいものになっているのだ。

「27番、検査終了。これより入房だ。房の施錠と同時に、首輪と貞操帯を起動させる」

さらに過酷な独房生活が始まろうとしていた。

残り刑期：720時間00分00秒



【独房】

「うゝ あゝ あゝ あゝ あゝ あゝ ああああ！！！！射 精 っ！！射精させてええええええええええ！！！！」

「先生ええええ！！！！お願いですっ！！もうレイプなんでじまぜんがらああああああああああ！！！！」

「あぎゃあああああ！！！！射精じないどじぬううううう！！！！」

あちこちの独房から、鬼気迫る叫び声が響いていた。射精を懇願する発言は禁止されており、刑期延長の対象となるはずだ。叫び声の主達は、延長が重なり過ぎて、もはや生涯ここから出られる見込みの無くなった者達なのだろう。

(はあはあ…あっぐ…乳首い…♡)

No.027は、入房初日からもう性欲が抑えられず、唯一、触れても咎めの無い乳首を指先で弄っていた。喘ぎ声は禁止されているため、声を抑えながら、ヨリヨリと乳首を転がす。

(うあああ…♡射精したい♡射精したい射精したい射精したいっ♡♡駄目なのにっ♡勃起したら刑期縮まらないのにい♡)

貞操帯に閉じ込められたペニスは必死に勃起しようとぎちぎちと音を立てている。当然、センサーが反応して刑期は進まなくなっている。

いつもなら日に7、8回は自慰か性交で射精していたのだ。それがもう、犯行時以降、一度も精を放っていない。No.027は既に気が狂いそうだった。

(だめえ♡乳首弄るの止まんないっ♡勃起抑えされないいい♡♡苦しいっ♡ちんぽ苦しいいいっ♡♡♡)

その夜、No.027は一睡も出来なかった。

残り刑期：719時間54分38秒(収監より1日経過)

だめえボク
刑期のびちゃうのに
オナニーしたいっ射精
しゃせいしゃせい
しゃせいしゃせい



【排泄】

独房内にはトイレが無く、囚人は自由に排泄することを許されていない。

排泄が許可されるのは朝・昼・晩の1日3回、それぞれ30分間のみ。房の前に来た排泄担当官に『囚人番号』、『小便か大便かの選択』、『用便願います』の声かけの後、排泄用の穴から尻を出し、排泄担当官に見えるように容器に排泄する。

一度に排泄できるのは大か小のどちらかのみ。選択していない方を漏らすことは懲罰対象である。

「18番っ！！！！用便願いますっっ！！！！願いまあああああすうううううう！！！！」

「136番っ！！！！お願いじまずっ！！！！昨日からもう限界でええええ！！！！漏れるうううううう！！！！！！！！」

「58番っ！！！！用便っ！！用…あ…ああああああああ！！！！！！！！」

排泄時間になると、あちこちの牢から排泄を乞う叫びが飛び交う。排泄担当官は数人しかおらず、30分間という短い時間ではとても全ての房を回り切れない。大抵の囚人は常に尿意か便意に苛まれており、酷い時は日に一度も排泄できないこともある。

「27番っ！！！！！！小水ですっ！！用便願っ…うああああああああああああ！！！！」

No.027も、昨日の朝から我慢していた小便をようやく排泄できたが、膀胱が限界過ぎて「用便願います」と言い切る前に勢いよく漏らしてしまった。これにより、3時間の刑期延長と、次回の排泄時間の権利を失った。

残り刑期：718時間18分16秒(収監より3日経過)

ねがい用便...
あいまあ...!!

だ...
小水...
です!!

ぎ...
ぎ...
ぎ...

グルッ!!

グルッ!!
グルッ!!

ピシャアアア!!



【洗淨】

監獄には風呂等がある浴場は存在しない。囚人の汚れた身体は、週に一度、専用の洗淨施設で清められる。

鎖で拘束した囚人を、ブラシが付いたマシンアームが身体のすみずみまで磨き上げる。30分ほどの行程だが、囚人にとってはかなり苦しい時間となる。

「ふっ…♡んぐっ…♡ふうっ…ふううううう…♡♡♡♡」

洗淨中のNo.027は必死に声を抑えていた。洗淨に使われるボディソープにはローションが混ぜられており、絶妙な力加減のブラシが乳首、脇の下、股間周り、肛門等、デリケートな部分を執拗に擦る。

容赦なく性感帯を責められながら、喘ぎ声と捉えられるような声を上げることは禁止されている。しかも、洗淨時においても貞操帯を外されることはないため、勃起しようとするペニスの苦しみが、No.027の焦燥感を掻き立てる。

「んっ…♡ううぐううう…♡♡♡♡」

(うああああ♡♡♡そこっ♡♡そんな洗い方されたらちんぽ勃っちゃううう♡♡♡苦しいっ♡♡ぐるじいいいい♡♡♡貞操帯外してっ♡♡♡ちんぽも磨いてっ♡♡♡♡お願いiiiiiiii♡♡♡射精っ♡♡♡射精したい射精したい射精ええええええ♡♡♡♡♡)

ギチギチと音を立てる貞操帯の先端から、泡に混じって濃いカウパーがぶら下がっている。明らかに勃起しており、監視していた担当看守から厳しい声が飛ぶ。

「27番！！洗淨中だ！すぐに勃起を鎮め、その汚い液を止める！！30秒以内だ！刑期を延長するぞ！！！」

叱責されても、当然勃起を収めることなどできず、No.027は30分間カウパーを垂らし続けた。

残り刑期：736時間28分05秒(収監より7日経過)



【更生プログラム①】

「それでは、自慰、始め！」

「はあはあっ♡おおっ♡♡ちんぽ気持ち良いですうっ♡♡♡」

担当看守の合図と共に、No.027が股間にそそり立つものを勢い良くしごき始める。

しかし、一生懸命にしごくそのペニスは、本物に似せたただの模型である。疑似ペニスの下からはしっかりと貞操帯が覗いている。

ふたなり更生監獄の囚人には『更生プログラム』が実施される。これもその1つだ。

釈放後もむやみに性交をせずに済むよう、健全な自慰で性欲を発散する訓練、というのが目的である。感触も温度も極めて人肌に近い疑似ペニスを、自分のものだと思って1時間しごく。ある程度なら淫語を口にすることも許される唯一の時間だ。

「姿勢を正せ！左手は机の上だ！そのペニス以外に触れるな！」

監視する担当看守から厳しい指示が飛ぶ。自慰の仕方や発した言葉が悪いと、懲罰の対象となってしまう。

「おあああっ♡これからは健全にオナニーしますう♡♡セックスも要りません♡♡射精も要りません♡♡気持ち良いですう♡♡♡」

当然だが、疑似ペニスをいくらしごいても快感など無い。しかし、疑似ペニスの感触がやたらリアルであるために、無快楽で自分のペニスを触っているような錯綜感と、しごくたびに伝わってくる僅かな振動で、貞操帯の中の本物のペニスが反応してしまう。

(ああああああ♡♡♡♡いくらしごいてもしごいても気持ち良くない
いいいい♡♡♡♡ちんぽ反応して辛いいいいい♡♡♡もうやだっ♡♡♡
やめたい♡♡♡やめたいよおおおお♡♡♡)

収監から16日、勃起すら一度も許されていないペニスの先端から、絶え間なくカウパーが漏れ出していた。

残り刑期：728時間45分36秒(収監より16日経過)



【更生プログラム②】

「おっ♡おっ♡♡おっ♡♡おほおっ♡♡♡前立腺溶けるうっ♡♡♡♡」

椅子に拘束されたNo.027の下品な喘ぎ声が響き渡る。

「27番！しっかり声に出して自分のオスの部分を否定しろ！」

「はいいい♡♡もう射精は要りません♡♡勃起も必要ありませんっ♡♡♡
ちんぽダメにしてくださいいい♡♡完全なメスになるますう♡♡♡」

行われているのは、囚人の雄性を潰すことで、歪んだ性欲を矯正する更生プログラムだ。

肛門と尿道から、特殊な電子パルスを発する端子を前立腺の位置まで挿入し、通電する。快楽を引き出すパルスが前立腺に直接流し込まれるため、未開発の者でもとろけるようなメスの快感を得ることができる。

その状態のまま、己の雄性を否定する言葉を声に出し続けることで、射精への執着を削ごうというものだ。

「ぬっ おっ うっ♡♡♡射精じませんっ♡♡♡私は女の子だから射精はいりませんっ♡♡♡ちんぽなんか無くなってもいいですう♡♡♡♡」

「ならどうして貞操帯のセンサーが反応している？まだ勃起をしているのはどういうことだ！！」

「うっ おっ おっ ♪♡♡♡ごめんなさいごめんなさいいいいい♡♡♡♡」

かれこれ2時間も通電されているが、貞操帯の中のペニスは、少し芯が柔らかくなっているものの、激しく勃起していた。この方法で射精欲求を完全捨てることは困難だろう。

（いっ ぎっ♡♡♡もうちょっとで何が来そうっ…なのにい♡♡♡ぐあ
ああああ♡♡♡せづないっ♡♡♡せづないいいいい♡♡♡♡）

このパルスを使えば、ドライオーガズムという射精を伴わない絶頂に達することが容易であるが、囚人が満足することを防ぐため、ぎりぎり絶頂に達しないパルスレベルに設定されている。何時間経けても、快楽の波が上がりきることはない。

No.027の脳に、もう一つの巨大な欲求が刻み付けられた。

残り刑期：746時間17分58秒(収監より25日経過)

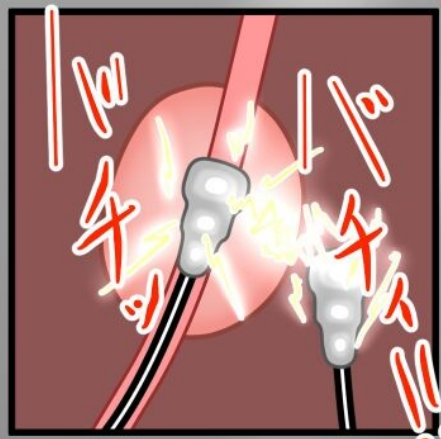
もう射精は
いりません、ボッキも
必要ありません、
ちんぽがメスに
完全なメスに
なります、う

お前立腺お
とける、う

ぞぞぞ

ビク
ビク
クッ

ガク
ガク



ガクガク

ビク

フル
フル

【尋問】

囚人は月に一度、担当看守から尋問を受ける。

表向きは囚人の更生具合を確認し、刑期短縮の判断材料にすることが目的、となっているが、実情は全く違う。尋問中は担当看守に大きな権限が与えられており、何でもありの恐怖の時間なのだ。

「直立不動の姿勢で前だけを見る！自分の汚いモノを視界に入れることも許さん！手を1ミリでも動かしてみろ。即刻去勢してやる」

厳しい指示の後、No.027の貞操帯が1ヶ月ぶりに外された。解放されたペニスが、ぶるんと音を立てるように、一瞬でフル勃起した。

「んはあああっっっ♡♡♡♡♡」

「私からの質問以外で声を出すな。今ので5時間の刑期延長だ」

「…っっ！？」

勃起したNo.027のペニスは、暴発防止のためのリングで固定された。担当看守はそこにローションを垂らし、柔らかい刷毛でねちっこく広げ始める。1ヶ月ぶりの刺激に、No.027の背筋に電撃が走った。

「~~~~~っっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「射精欲求は無くなったか？」

「は…はいっ！！！！もう無くなりました！！」

「こんなに醜く勃起させておいて、よく堂々とそんな嘘をつけるな。10時間の刑期延長だ」

「ああっ！！ご、ごめんなさいっ！！！！」

「質問以外で口を開くなと言っただろう。さらに6時間の刑期延長だ」

ぺちよぺちよと焦らすような刺激をペニスに与えながら、担当看守の詰問が続く。No.027は声を抑え、姿勢を保つので精一杯だった。すると担当看守が急に立ち上がり、No.027の耳元で囁いた。

「私は最初からお前を釈放する気は無い。この尋問中に、必ずお前を懲罰房にぶち込んでやる。覚悟しておけ」

No.027は絶望感で崩れ落ちそうになった。

残り刑期：1329時間56分43秒(収監より30日経過)



ドン
ドン
♡♡♡♡♡

フ
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

ぞ
わ
あ
♡♡♡♡♡

ム
ク
ん
♡

ペチ
ペチ
027

ドン
♡♡♡♡♡

キ
♡♡♡♡♡

び
く
び
く
♡♡♡♡♡

【懲罰房】

「があゝ あゝ ああああ！！！！ちんぽ苦じいい！！！！射精射精
射精射精ええええええええええ！！！！」

暗い懲罰房にNo.027の悲痛な叫びが響いていた。しかし、密閉された懲罰房には窓すら無く、その声が外部に漏れることもない。

懲罰房は、通常の独房が天国に思えるほどの環境だった。

房内では完全拘束状態で動くことすらできない。貞操帯をより勃起が困難で苦痛を伴うフラット型に取り替えられたうえ、勃起を促すための乳首責め器具が常に乳首を責め立てる。勃起状態になろうとするペニスを収めることができず、気が狂いそうな状況から逃れられない。

さらに、通常の独房では日に3回あった排泄時間も、1回だけ。もちろん大か小のどちらかだけで、排泄時間は1分と極めて短い。確実に排泄はできるものの、時間が短すぎて出し切れないことも多い。

そして何より、懲罰房に入れられている間は刑期が進まない。

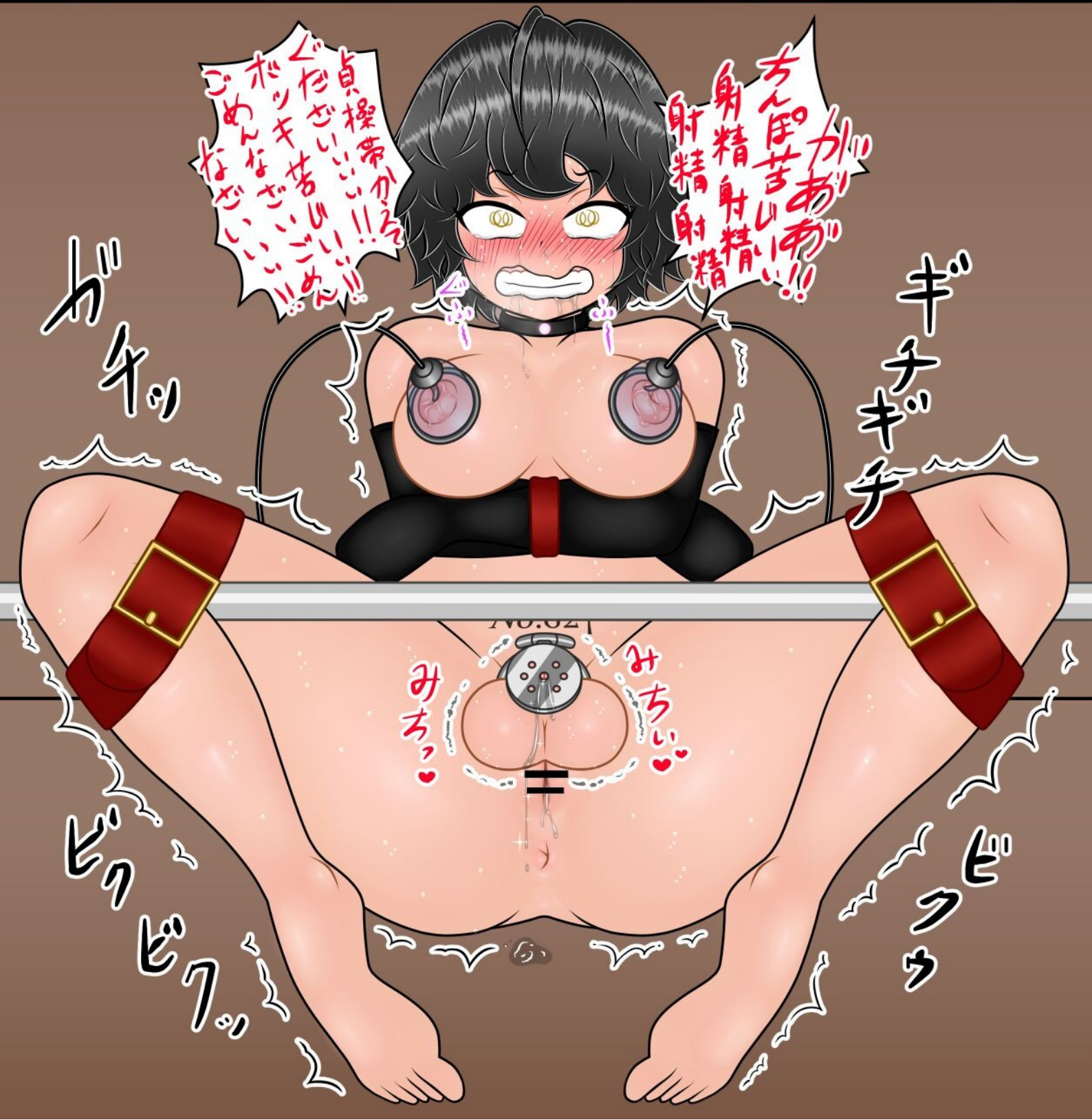
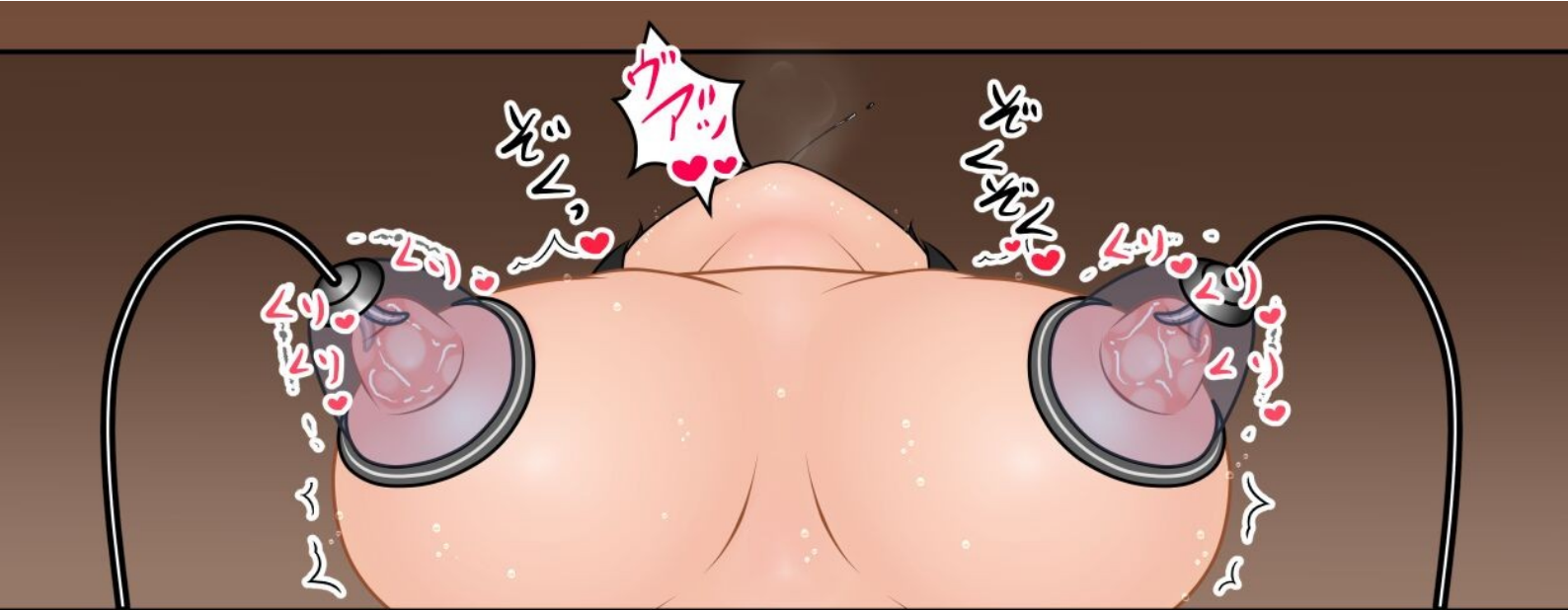
「うゝ あゝ あゝ あゝ あああああ！！！！！！せめてっ…せめて貞操帯を替えてくださいいいいい！！！！おねがいじまずっ！！！！ちんぽ苦じいいんですうううう！！！！ごめんなさいっ！！！！ごめんなさいごめんなさいいいいいいい！！！！！！」

誰にも聞こえることのない叫びが虚しく響く。時間の感覚も無くなり、いつ終わるとも分からない地獄が延々と続く。

だが、懲罰房の恐ろしさはこれだけではない。不定期なタイミングで突然、房から引き出され、『懲罰室』に連れて行かれる。そこで行われる非人道的な『懲罰』の恐怖にも怯えなくてはならない。

死んだ方が楽だと思えるほどの懲罰房生活が幕を上げた。

残り刑期：1836時間18分16秒(収監より38日経過)



【懲罰：ヒトイヌ化奉仕】

パンパンパンパン！！

「んおおおうっ♥♥♥♥むぐっ♥♥♥♥むおおおおお♥♥♥♥」

懲罰室に響き渡る、肉と肉がぶつかり合う音と、獣じみた嬌声。
両肘と両膝を完全に曲げた状態で固定され、まるで犬のような四つん這いしかできなくなったNo.027が、ふたなりの看守達に『奉仕』させられていた。

口腔内と尻穴を代わるがわる犯され、便所のように精液をぶちまけられる。もう、何人の相手をさせられたか分からない。

どくんっ♥♥♥♥どくん♥♥♥♥どくんっ♥♥♥♥！！
どぴゅっ♥♥♥♥どぶううっ♥♥♥♥！！！！

「あゝ おゝ っ♥♥♥♥むおおおおお♥♥♥♥出へるっ♥♥♥♥ありがふおございまふうう♥♥♥♥」

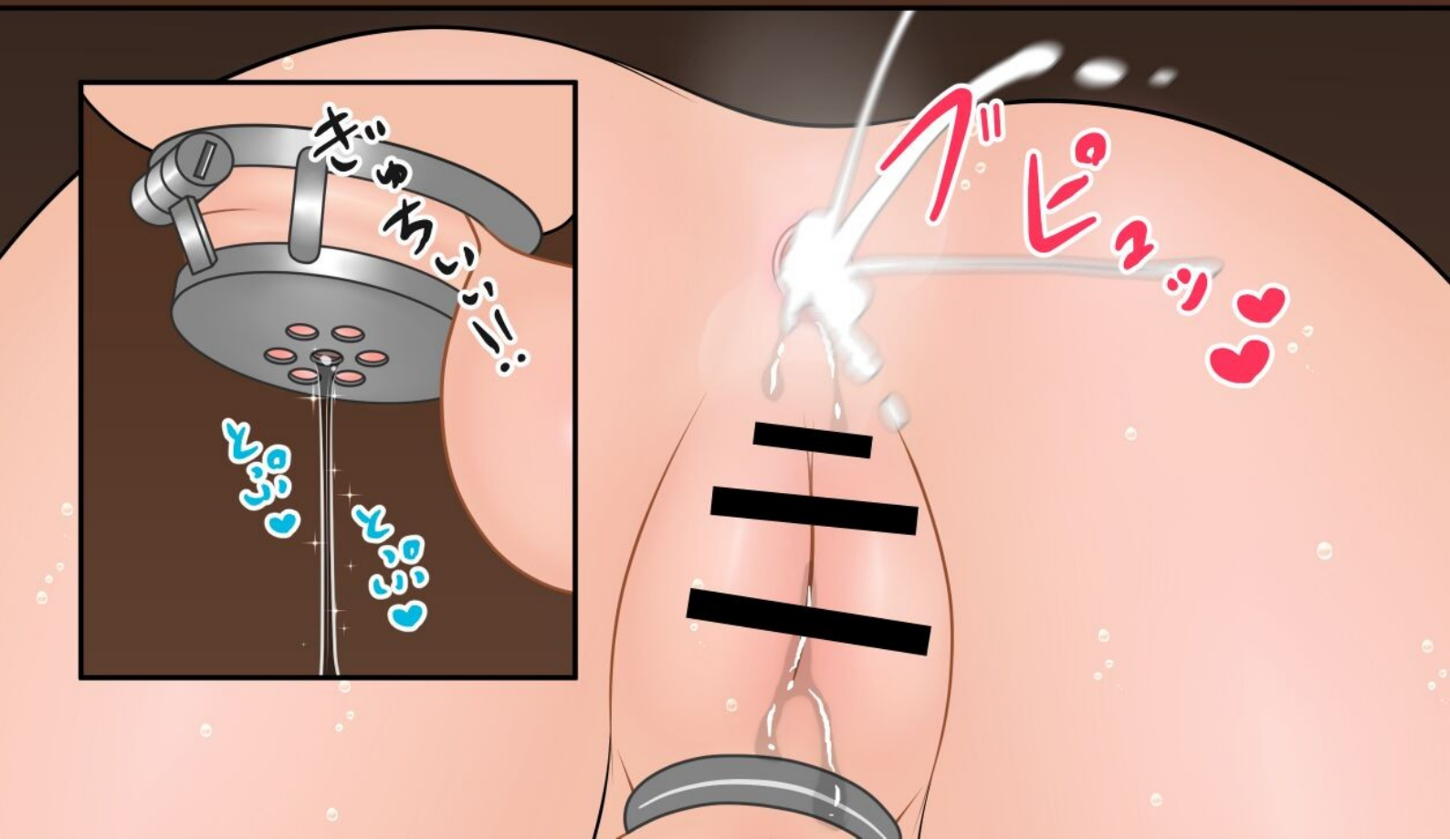
看守が射精する度に、礼を言うことを命じられ、お世かえりそうな臭いの精液を飲み干す。著しく歪んではいるが、これは監獄内で厳禁とされる性交である。懲罰房では、性交すら懲罰の一部として利用されているのだ。

犯されている間も、No.027の貞操帯は外されることはない。そんな状態で尻穴から前立腺を蹂躪され、気持ち良さそうに射精するペニスを目の前で何度も見せつけられる。口に広がる精液の味も、No.027の射精欲求を爆発させるのには充分過ぎた。

貞操帯に閉じ込められたペニスは、少しでも勃起をしようと固くなり、膨らむが、ぎちぎちと音が鳴るだけでそれは叶わない。射精の懇願を口にすることは即、懲罰期間の延長、厳罰化を意味する。

もはや命乞いに近いほどの射精への願いを、必死の思いで噛み殺すしかなかった。

残り刑期：2589時間45分36秒(収監より54日経過)



【懲罰：獣用バイアグラ治験】

一度入れられたら二度と出られないと言われる懲罰房に、No.027はまだ収監されていた。

筆舌に尽くしがたい、放置と懲罰を繰り返すだけの日々。射精以外の人間らしい理性が少しずつ脳から消えていき、No.027は自分の本当の名前すら忘れそうになっていた。

「お° ごお° お° おおおおおお！！？ぬ° お° お° おおおお！！！」

本日の懲罰は、ある新薬の『治験』であった。

人間用ではなく、馬や牛等、大型の獣用の精力剤。動物への実験も済まされていない薬物を、口径だけでなく、睾丸に直接投与される。

心臓は張り裂けそうなほど高鳴り、破壊衝動にも近い交尾への本能が呼び覚まされる。貞操帯で勃起もできないペニスが、別の生き物のように暴れ、カウパーが噴水のようにピュルピュルと噴き出した。

「ん° お° お° お° おおおおおおおお！！！！！！がああああああああああ！！！！！」

No.027はまさに獣の咆哮のような声を上げ、身体を激しく痙攣させる。目の焦点も合わず、意識があるのかも分からない。

びゅっ！！どびゅるっ！！

その時、貞操帯の小さな穴から、白い精液が飛び出した。異常な交尾への衝動を、貞操帯でも抑えることができなかったのだ。

No.027としては一度分にも満たない量で、しかも自身も射精したことに気づいてすらいないだろう。しかし、次の瞬間、懲罰室にけたたましい警報が鳴り響く。

『射精を検知！囚人番号027！射精を検知！』

機械音声の後、No.027は一瞬で看守たちに取り囲まれた。

「間違いありません！射精しています！」

「27番！！貴様をこれから『執行室』へ移す！！」

No.027にその声が聞こえているのか、定かではなかった。

残り刑期：4087時間23分39秒(収監より108日経過)



【寸止め恩赦】

「あぎっ♥♥27番っ♥♥射精が近いでずっ♥♥寸止め実施じまう♥♥♥」
『搾精停止。射精まで1.26秒。この寸止めは承認されません』
「うがああああああ♥♥♥無理っ♥♥もう無理でずううううう♥♥♥♥」
『5秒以内に搾精を再開してください』

ここは『執行室』の前室。去勢を言い渡されたNo.027が、執行を免れる最後のチャンスである『寸止め恩赦』に挑んでいた。

貞操帯を外され、射精反応を感知するセンサーがついたオナホールでひたすら搾精される。射精が近づいたら、手元の停止ボタンで自ら寸止めしなければならない。24時間の制限時間以内に、寸止めが100回承認されれば、去勢の執行は中止される。

しかし、寸止めが回数として承認されるには、下記の2点を満たしていることが条件である。

①停止前に「〇〇番、射精が近いです。寸止め実施します」という寸止め宣言を、はっきり音声認識させること。

②射精まで0.10秒以内の寸止めであること。

また、寸止めが失敗して暴発するか、10秒以上搾精が停止された場合、睪丸のリングが締め、即座に去勢が執行される。

「あゝ うゝ あっ♥27番っ♥射精が近いですっ♥寸止め実行じます♥♥」

『搾精停止。射精まで0.43秒。この寸止めは承認されません』

「んゝ んゝ っ♥♥♥♥27番、射精が近いですううっ♥♥♥♥寸止め実行じまあず♥♥♥♥」

『搾精停止。射精まで0.16秒。この寸止めは承認されません』

「がああああああ♥♥27番っ♥♥射精が近っ…うゝ おゝ おゝ っ♥♥♥♥」

『寸止め宣言が認識できません。この寸止めは承認されません』

『3秒以内に搾精を再開してください』

開始から1時間、暴発による去勢への恐怖と、寸止め宣言のタイミングの難しさで、すでに300回以上寸止めを実施しているが、承認されたのは僅か3回。

100回の寸止めに対し24時間という異常に長い制限時間。過酷な射精禁止生活で爆発寸前のNo.027にとって、恩赦を受けるのがどれほど困難か示している。

24時間、発狂しそうになりながら、No.027は必死で自分に寸止めし続けた。

寸止め恩赦の結果

実施寸止め8263回のうち、承認された寸止めは7回

恩赦は下りず、No.027の去勢執行が確定



27番
射精が近!
おめえが!
おめえが!
おめえが!

グッ
グッ
グッ

ガッ
ガッ
ガッ

キュン
キュン
キュン

ビクッ

きゅん
きゅん
きゅん

【去勢執行】

「囚人番号27番。今から貴様の去勢を執行する。もう首輪も貞操帯も必要無い。自分の愚かさを存分に噛み締めながら受ける」

「いゝやゝ ああああああ！！！！ごめんなざいっ！！！！ごめんなざいごめんなざいっ！！！！金玉潰さないでええっ！！！！何でもじまずうう！！！！」

「謝罪は全くの無意味だ。では、去勢刑について説明するから聞け」

No.027は執行台に四肢を拘束され、足元に見える恐ろしい道具の数々に、全身をガタガタ震わせていた。

「去勢の前にお前の睾丸を拷問する。まずは精索を捻じって睾丸捻転を起こさせる。その上で叩き、弾き、刺し、最大限の苦痛を時間をかけて与えていく。その後は本格的に去勢に入る。精巣の器官を1つ1つ、徹底的に拷問してから最後に焼く。

もちろん麻酔は無しだ。強力な覚醒薬を投与してあるから気絶はできない。排泄口は塞いでいる。失禁や脱糞をされると鬱陶しいからな。去勢が佳境に入ってくると、生命の危機を感じて本能的に射精する者もいるが、尿道を塞いでそれもさせない。

だいたい5～6時間で終了する予定だ。生殖機能があるうちに、何か言い遺したいことはあるか？」

「あゝあゝあゝ ああああああ！！！！ごめんなざいっ！！！！もうオナニーもじまぜんっ！！！！一生射精できなくてもいいですがらあああ！！！！おねがいじまずっ！！！！おねがiiiiiiii！！！！」

「それで全部か？心配しなくても、自慰も射精も一生しなくてよくなるぞ」

「いゝやゝ っ！！！！いゝやゝ あゝあゝあゝあゝ ああああ！！！！」

No.027は腰を抜かし、塞がれた尿道の隙間からプシュプシュと尿を漏らした。気絶することも発狂することもできない、長時間に及ぶ確実な地獄を前に、顔をぐちゃぐちゃにしながら泣き叫んでいた。

こうして、No.027の獄中生活は終わった。かけがえのない生殖機能と引き換えに…

残り刑期：去勢執行により無効(収監より110日経過)







2022年5月5日頒布(ふたけつと28)

サークル名：ふろむアキオる一む(PN. アキオ)

pixiv：<https://www.pixiv.net/member.php?id=2676082>

twitter：https://twitter.com/akio_futanari

印刷会社：株式会社明光社 STARBOOKS